

第40回

北区河川生物生息調査

報告書

令和5年度

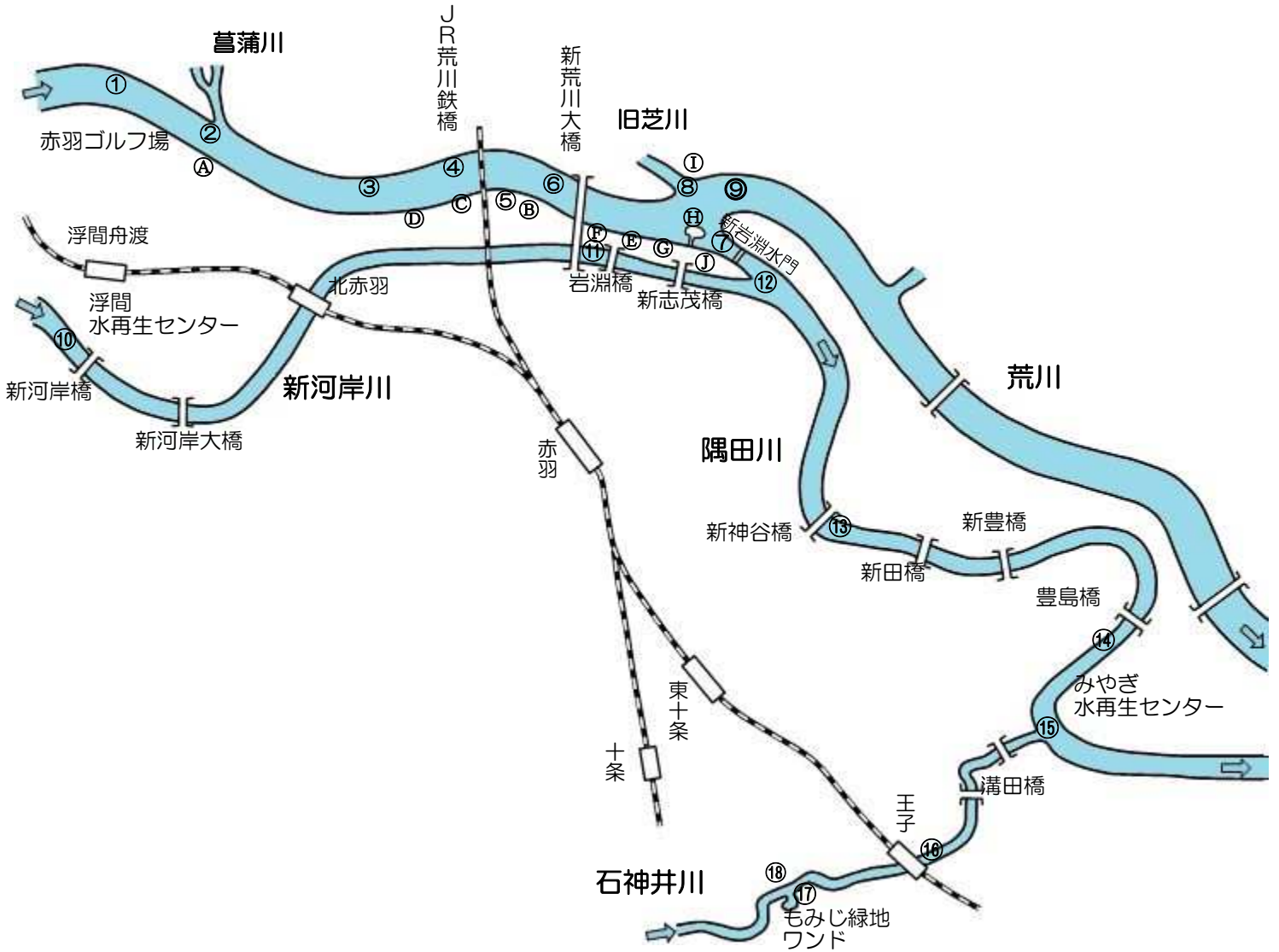


令和6年3月

北 区

北区河川生物生息調査地点図（令和5年度）

釣り調査地点 A～J
投網調査地点 ①～⑱



投網調査地点

◎令和5年9月15日 ☆9月28日 ★10月13日

[荒川]

- ☆☆-①戸田橋下流
- ☆☆-②菖蒲川・荒川合流点付近
- ☆☆-③JR 荒川鉄橋上流 200-400m 付近
- ☆-④JR 荒川鉄橋付近
- ◎-⑤荒川子どもの水辺ワンド（流出水路も含む）
- ☆-⑥新荒川大橋下
- ☆-⑦旧岩淵水門・新岩淵水門中間
- ☆☆-⑧旧芝川・荒川合流点付近
- ★-⑨旧芝川・荒川合流点下流 200m 付近

[新河岸川]

- ★-⑩浮間水再生センター排水口付近
- ★-⑪新荒川大橋・岩淵橋中間

[隅田川]

- ☆☆-⑫新岩淵水門下流
- ☆-⑬新神谷橋付近
- ☆-⑭豊島橋付近
- ☆-⑮みやぎ水再生センター付近

[石神井川]

- ☆-⑯石神井川王子駅下トンネル内
- ◎-⑰もみじ緑地ワンド
- ◎-⑱もみじ緑地ワンド横本流

釣り調査地点

令和5年10月13日

[荒川]

- A 菖蒲川・荒川合流点右岸
 - B 新荒川大橋・JR 荒川鉄橋中間点付近
 - C JR 荒川鉄橋下
 - D JR 荒川鉄橋上流 50m 付近右岸
 - E 新荒川大橋下流 200m 付近右岸
 - F 新荒川大橋下流 50m 付近右岸
 - G 新荒川大橋下流 300m 付近右岸
 - H 荒川赤水門緑地
 - I 旧芝川・荒川合流点付近
- [新河岸川]
- J 新志茂橋付近左岸

はじめに

私たちの住む北区には、荒川をはじめ隅田川・新河岸川・石神井川の4河川が流れています。川は、昔から人々と深いかかわりを持ち、まちの産業・文化の発展に大きな役割をはたしてきました。また、豊かな流れと美しい自然の景観も多くの恵みをもたらしてくれました。

しかし、戦後の産業経済の発展と急速な都市化の進行にともない、川は、工場排水や生活排水により著しく汚れてしまいました。なかには、一時期、悪臭がして魚も棲めないため、「死の川」と呼ばれた川もあったほどです。さらに、治水対策として垂直のコンクリート護岸がつくられ、人々をますます水辺から遠ざけてしまいました。

このように川が下水に近くなった時代から、近年は汚濁発生源に対する規制の強化と下水道整備等により、水質は良くなってきました。また、河川環境の整備も進み、各種の魚も見られるようになって、川は再び憩いの水辺として甦りつつあります。

しかし、魚などの水生生物が安定して棲め、誰もが安らぎやうるおいを得られる川としては、河川の構造改善、水質・流量の安定など、まだまだ多くの課題があります。さらなる水質改善や水辺環境の向上を図るには、区が各種の施策を積極的に推進することはいうまでもありませんが、区民の方々にも河川に対する強い関心を持っていただき、多方面からの対策を展開することが必要です。

区では、化学分析による水質調査だけでなく、河川の魚類生息状況を調査し、推移をみることにより河川環境を判断することを目的として、昭和59年度から「河川生物生息調査」を継続実施しています。この報告書は、令和5年度に実施した第40回調査の結果をまとめたものです。誰にでも親しめる水辺環境の実現に向けて、区民の方々に河川の水質や環境に対する理解を深めていただくための参考となれば幸いです。

なお、当調査にご協力いただいた北区釣魚連合会、淡水魚類研究者の君塚芳輝氏、一澤成典氏、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

【調査概要】

北区では北区内の河川に生息している魚類を把握するため、令和5年9月～10月にかけて計3回魚類調査を行いました。採集した魚は、種・亜種（以下種類とする）の同定、個体数、全長と標準体長（最少～最大）の測定を行いました。

第1回調査は令和5年9月15日に、石神井川もみじ緑地ワンド・ワンド横の石神井川本流と、荒川子どもの水辺ワンドで、歩いての投網・手網による調査をしました。

第2回調査は令和5年9月28日に、荒川・隅田川・石神井川で、船からの投網による調査をしました。

第3回調査は令和5年10月13日に、荒川・新河岸川で、北区釣魚連合会の協力による釣りと、荒川・隅田川・新河岸川で船からの投網による調査をしました。

採集した一部の魚については、可食部の総水銀とPCBの含有量について魚肉分析をしました。

	調査日	調査項目	調査方法	調査場所
第1回	9月15日	魚類生息状況	歩いての投網・手網	石神井川・石神井川もみじ緑地ワンド 荒川子どもの水辺ワンド
第2回	9月28日	魚類生息状況	船からの投網	荒川 隅田川 石神井川
第3回	10月13日	魚類生息状況 魚肉分析	釣り 船からの投網	荒川 隅田川 新河岸川

[石神井川もみじ緑地ワンド（音無もみじ緑地）]

すり鉢状の護岸構造ですが、階段があって川岸近くまで降りることができます。川に面してワンドが設けられ、本流の流水環境に対して静水環境を付加することで、河川の構造的環境の多様性を高めています。ワンドの中央には水生植物などが繁茂し、増水時に川から入ってきた魚が定着しやすいようになっています。

[荒川子どもの水辺ワンド（北区・子どもの水辺）]

JR荒川鉄橋と新荒川大橋の間に挟まれた高水敷に、ワンドのある自然地「北区・子どもの水辺」が整備されています。平成26年度には、国土交通大臣表彰の「手づくり郷土賞」一般部門に選定されました。また、地域のボランティアの方々の熱心な活動に支えられ、良好な生態系の保持と多世代にわたる人々の自然環境学習の場として利用されています。令和2年度には、ボランティア団体である「北区・子どもの水辺協議会」が「第22回日本水大賞」審査部会特別賞を受賞いたしました。



【調査結果】

3日間の調査で30種類618尾が確認され、例年に比べ個体数がやや少ない結果となりました。調査を始めてから今までに確認された魚種は59種類です。

東京都レッドリスト記載種は6種類、環境省レッドリスト記載種は2種類、外来種は3種類確認されました。魚種の内訳は、淡水魚種と海水・汽水性魚種であり、広い範囲が汽水域や感潮域である北区内河川の特徴を表しています。

石神井川と石神井川もみじ緑地ワンドなどで確認されたアブラハヤ・シマドジョウ・メダカは、元々この川には生息せず、多くの魚種は川での流程分布も異なるため、明らかに人為的放流によるものと考えられます。人為的放流は地域に形成された生物相や生態系、遺伝子資源に様々な影響を及ぼす可能性があるため、絶対に行うべきではありません。



手網によるワンド調査(石神井川もみじ緑地ワンド)



船からの投網(荒川)



釣りによる採集(協力:北区釣魚連合会)



クルマサヨリ採集(隅田川新岩淵水門下流)

【河川別個体数】

各河川において確認された種類と個体数は以下のとおりです。

番号	目名	科名	標準和名	荒川		隅田川	新河岸川	石神井川		合計	備考		
				荒川	子どもの水辺 ワンド			石神井川	もみじ緑地 ワンド				
1	ニシン	ニシン	コノシロ	92		23				115			
2	コイ	コイ	タモロコ					2	3	5	国内移殖種		
3			モツゴ		57				1	13	71		
4			ニゴイ	9			1	1			11		
5			アブラハヤ**							85	85	国内移殖種※	
6			マルタ	2			1		5		8		
7			オイカワ							1	1		
8			ハス	1							1	国内移殖種	
9			ギンブナ	4	11					1	16		
10			ゲンゴロウブナ		1						1	国内移殖種	
11			コイ				1	1		2	4		
12			タイリクバラタナゴ			14					14	外来種	
13			ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ					2	23	25	
14					シマドジョウ**					3	5	8	国内移殖種※
15	ダツ	メダカ	メダカ*					1		1	国内移殖種※		
16		サヨリ	クルマサヨリ			13				13			
17	ボラ	ボラ	ボラ	63	8	6				77			
18	スズキ	タイワンドジョウ	カムルチー		1					1			
19		スズキ	スズキ	8	1					9			
20		タイ	キチヌ	1			1			2			
21		サンフィッシュ	ブルーギル	5	10		1			16	特定外来種		
22			オオクチバス	1						1	特定外来種		
23		ヒイラギ	ヒイラギ	4						4			
24		シマイサキ	シマイサキ	1	1					2			
25		ハゼ	アベハゼ		15						15		
26			クロダハゼ						1	1			
27			ヌマチチブ	6	16		1				23		
28			シモフリシマハゼ	6	10		2				18		
29			マハゼ	48	3	1	12				64		
30			アシシロハゼ		6						6		
5目13科30種類			個体数合計	251	154	45	19	15	134	618			
			種類数	15	14	6	7	7	9				

※国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

*東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

**荒川水系の天然分布種だが、本流からの遡上はできないので、人為的な放流と思われる

【外来種の確認状況】

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で特定外来生物と指定された種及び「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」に記載された外来種を「外来種」としました。

特定外来生物に指定されているブルーギルは小型魚類やエビ類などを捕食するため、在来生物群集に対する影響が懸念されています。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト
コイ	コイ	タイリクバラタナゴ	○					●
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	○		○		●	●
		オオクチバス	○				●	●

【絶滅危惧種等の確認状況】

環境省レッドリスト2020及び東京都レッドデータブック（2023年版）の選定基準で指定されている種。東京都レッドデータブックは区部の評価を基準としました。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	東京都レッドデータブック	環境省レッドリスト	国内移殖種
コイ	コイ	ニゴイ	○		○	○	準絶滅危惧		
		アブラハヤ※				○	準絶滅危惧		○
	ドジョウ	ドジョウ				○	絶滅危惧ⅠA類	準絶滅危惧	
ダツ	サヨリ	クルマサヨリ		○			絶滅危惧ⅠA類	準絶滅危惧	
スズキ	ハゼ	クロダハゼ				○	絶滅危惧ⅠA類		
		アシシロハゼ	○				準絶滅危惧		

※荒川水系の天然分布種だが、本流からの溯上はできない。また都市河川である石神井川では、国内他水域からの人為的放流の可能性が極めて高い

*東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドデータブック～2023年版」（東京都環境局）
絶滅危惧ⅠA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実に考えられるもの
準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
留意種：現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの
「環境省レッドリスト2020【汽水・淡水魚類】」
絶滅危惧ⅠA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する要素を有するもの

【魚肉分析結果】

採集した魚類の中から6検体を選び、可食部に含まれている総水銀とPCBの量を分析しました。その結果、全検体で総水銀とPCBが検出されましたが、暫定的規制値以下でした。

令和5年10月13日採集

	魚類名	捕獲河川名	場所	総水銀	PCB
				mg/kg	mg/kg
1	ニゴイ	新河岸川	新荒川大橋・岩淵橋中間	0.08	0.43
2	クルマサヨリ	隅田川	新岩淵水門下流	0.09	1.00
3	ボラ	荒川	新荒川大橋下流 200m 付近右岸	0.03	0.23
4	マハゼ	荒川	新荒川大橋下流 50m 付近右岸	0.03	0.15
5	スズキ	荒川	新荒川大橋下流 300m 付近右岸	0.18	0.21
6	キチヌ	新河岸川	新志茂橋付近左岸	0.06	0.31

- (備考) 1.総水銀とは水銀及びその化合物をいう。
2.分析値は全て乾燥試料あたりに換算してある。
3.分析部位の可食部については、数匹の可食部を混合したものである。
4.暫定的規制値
 ・総水銀…0.4mg/kg
 ・PCB(可食部のみ) 内海魚…3mg/kg
5.試験方法：衛生試験方法 2.4 食品汚染物試験法準拠

【資料】

第1回投網・手網調査の結果（令和5年9月15日）

(1)石神井川

もみじ緑地フンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	47~122	35~99	3
2	モツゴ	43~78	34~63	13
3	ギンブナ	71	53	1
4	コイ	110~113	86~88	2
5	アブラハヤ	10~34	8~27	85
6	オイカワ	101	83	1
7	ドジョウ	23~77	18~66	23
8	シマドジョウ	35~61	30~52	5
9	クロダハゼ	43	33	1

もみじ緑地フンド横本流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	33~55	29~45	2
2	モツゴ	33	27	1
3	ドジョウ	20~22	18-18	2
4	シマドジョウ	23~93	19~79	3
5	メダカ	14	12	1

(2)荒川

荒川子ども水辺フンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	35~83	28~67	54
2	ギンブナ	32~178	24~140	11
3	ゲンゴロウブナ	116	85	1
4	タイリクバラタナゴ	36~44	28~36	10
5	ボラ	86~121	72~98	8
6	スズキ	183	151	1
7	ブルーギル	36~60	29~48	9
8	シマイサキ	19	16	1
9	アベハゼ	22~25	18~20	7
10	ヌマチチブ	25~43	20~37	6
11	シモフリシマハゼ	33~42	28~36	5
12	マハゼ	83~85	68~69	2
13	アシシロハゼ	41	36	1

荒川子ども水辺フンド流出水路

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	34~35	28~29	3
2	タイリクバラタナゴ	32~46	23~33	4
3	カムルチー	75	64	1
4	ブルーギル	31	25	1
5	アベハゼ	23~31	19~25	8
6	ヌマチチブ	36~51	29~41	10
7	シモフリシマハゼ	26~33	20~27	5
8	マハゼ	85	74	1
9	アシシロハゼ	24~41	21~31	5

第2回投網調査の結果（令和5年9月28日）

(1)荒川

戸田橋下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	78~100	63~81	25
2	ハス	70	58	1
3	ボラ	427	288	1
4	ヒイラギ	40~63	32~52	2

菖蒲川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	78~143	60~114	12
2	ボラ	129~203	85~115	9
3	ブルーギル	41~43	32-32	2
4	オオクチハス	302	264	1
5	マハゼ	105	81	1

JR荒川鉄橋上流200-400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	86~158	65~129	7
2	マルタ	118	94	1
3	スズキ	151~462	123~378	2
4	ヒイラギ	64	52	1
5	マハゼ	121	98	1

JR荒川鉄橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	89~93	70~75	12
2	ニゴイ	138~147	111~121	2
3	ボラ	166	135	1
4	スズキ	332	277	1
5	シマイサキ	51	43	1
6	マハゼ	100~118	83~95	2

新荒川大橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	220	175	1
2	ニゴイ	163-163	133~136	2
3	ボラ	171	137	1

旧岩淵水門・新岩淵水門中間

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	88~120	70~96	3
2	ギンブナ	179	138	1
3	ニゴイ	135~150	109~120	2

旧芝川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	88~147	69~109	28
2	ニゴイ	71~140	50~114	2
3	ボラ	152~165	121~132	2

新岩淵水門下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ギンブナ	141	107	1

(2)隅田川

新神谷橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	98	80	1
2	ボラ	117~145	93~118	5

豊島橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	100	82	1
2	コイ	720	620	1

みやぎ水再生センター付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	91~111	73~91	21

(3)石神井川

石神井川王子駅下トンネル内

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	575	509	1
2	マルタ	432~493	370~416	5

第3回投網調査の結果（令和5年10月13日）

(1)荒川

戸田橋下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	112~127	87~95	2
2	ヒイラギ	75	60	1

曇浦川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	120~352	98~280	45
2	ブルーギル	61	49	1

JR荒川鉄橋上流200-400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ギンブナ	187~222	149~175	2
2	マハゼ	92	79	1

旧芝川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	109~110	90~94	2
2	ニゴイ	86	73	1
3	マハゼ	109~139	89~110	3

旧芝川・荒川合流点下流200m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	145	119	1
2	マハゼ	132	106	1

(2)新河岸川

浮間水再生センター排水口付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コイ	357	292	1

新荒川大橋・岩瀬橋中間

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	352	299	1
2	マハゼ	153	122	1

(3)隅田川

新岩瀬水門下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	116	90	1
2	クルマサヤソリ	155~174	138~154	13
3	ボラ	163	130	1
4	マハゼ	110	89	1

第3回釣り調査の結果（令和5年10月13日）

(1)荒川

A. 曇浦川荒川/合流点右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ヌマチチブ	57	49	1
2	マハゼ	112~144	86~122	8

B.新荒川大橋・JR荒川鉄橋中間点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	107~135	89~112	7

C. JR荒川鉄橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ヌマチチブ	47~57	38~49	4
2	シモフリシマハゼ	37~61	31~54	4
3	マハゼ	100~135	82~110	3

D. JR荒川鉄橋上流50m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	185	149	1
2	ヌマチチブ	57	43	1

E. 新荒川大橋下流200m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	278	220	1

F. 新荒川大橋下流50m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	170	133	1
2	マハゼ	111~143	90~115	9

G. 新荒川大橋下流300m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	205~218	179~188	2
2	マハゼ	110~128	88~106	5

H.荒川赤水門緑地

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	158	129	1
2	ブルーギル	139	115	1
3	シモフリシマハゼ	56~64	46~54	2
4	マハゼ	114	98	1

I.旧芝川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	132~173	107~144	2
2	スズキ	169	139	1
3	キチヌ	171	145	1
4	ブルーギル	149	124	1
5	マハゼ	98~142	73~114	6

(2)新河岸川

J. 新志茂橋付近左岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	キチヌ	191	152	1
2	ブルーギル	152	119	1
3	ヌマチチブ	64	51	1
4	シモフリシマハゼ	53~53	44~44	2
5	マハゼ	108~150	87~122	11

北区で見られる魚たち 1 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<1> サッパ



<2> コノシロ



<3> カライワシ



<4> ウナギ



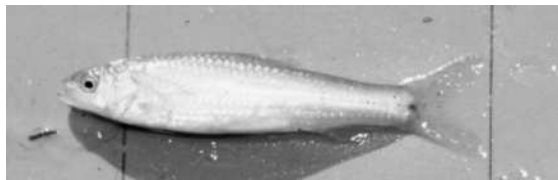
<5> アユ



<6> ワカサギ



<7> タモロコ



<8> スゴモロコ



<9> モツゴ



<10> ニゴイ



<11> カマツカ



<12> ツチフキ



<13> アブラハヤ



<14> ウグイ



<15> マルタ



<16> カワムツ

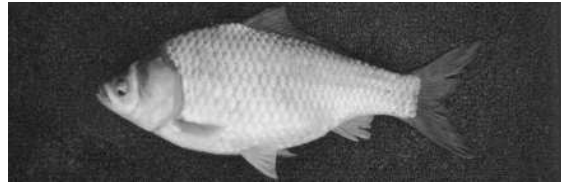


北区で見られる魚たち 2 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

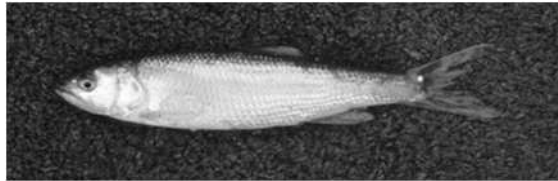
<17> オイカワ



<25> ゲンゴロウブナ



<18> ハス



<26> キンギョ



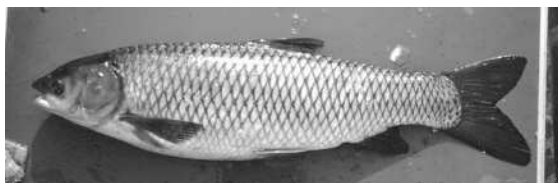
<19> ワタカ



<27> コイ



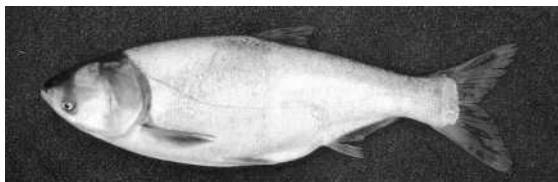
<20> ソウギョ



<28> ヤリタナゴ



<21> ハクレン



<29> アカヒレタビラ



<22> コクレン



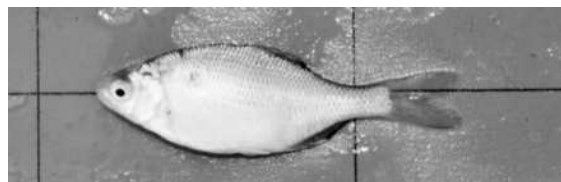
<30> タイリクバラタナゴ



<23> キンプナ



<31> ゼニタナゴ



<24> ギンブナ



<32> ドジョウ



北区で見られる魚たち 3 -河川生物生息調査で捕れた種類-

<33> シマドジョウ



<41> カムルチー



<34> ギバチ



<42> スズキ



<35> ナマズ



<43> キチヌ



<36> メダカ



<44> オオクチバス ※特定外来生物



<37> クルメサヨリ



<45> コクチバス ※特定外来生物



<38> カダヤシ ※特定外来生物



<46> ブルーギル ※特定外来生物



<39> グッピー



<47> ヒイラギ



<40> ボラ



<48> シマイサキ



北区で見られる魚たち 4 -河川生物生息調査で捕れた種類-

<49> コトヒキ



<50> アベハゼ



<51> ヒナハゼ



<52> クロダハゼ



<53> ウロハゼ



<54> ウキゴリ (淡水型)



<55> ビリンゴ



<56> ヌマチチブ



<57> シモフリシマハゼ



<58> マハゼ



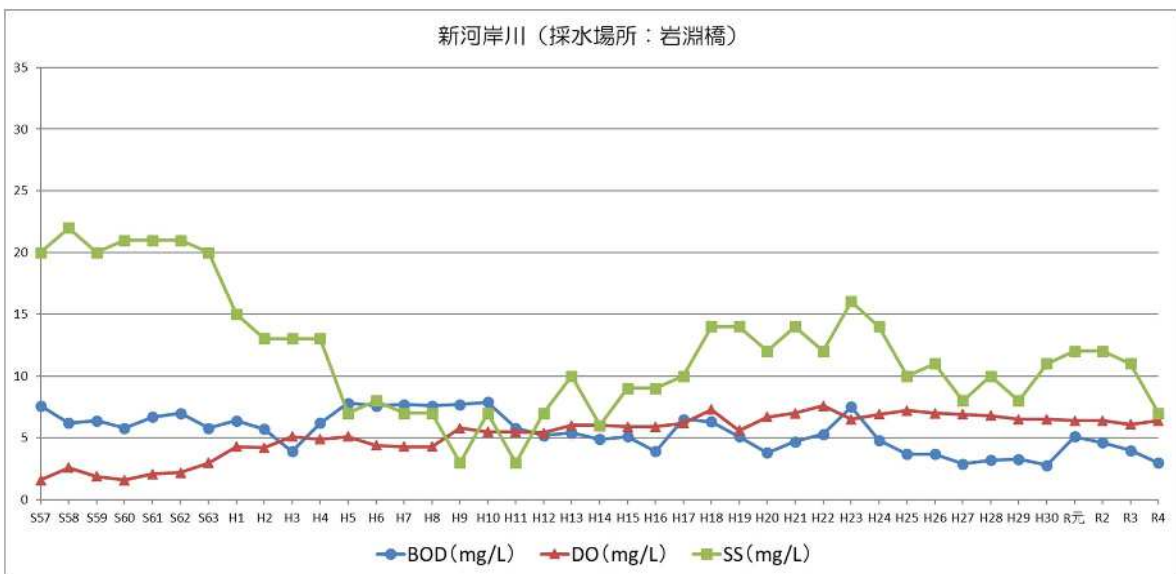
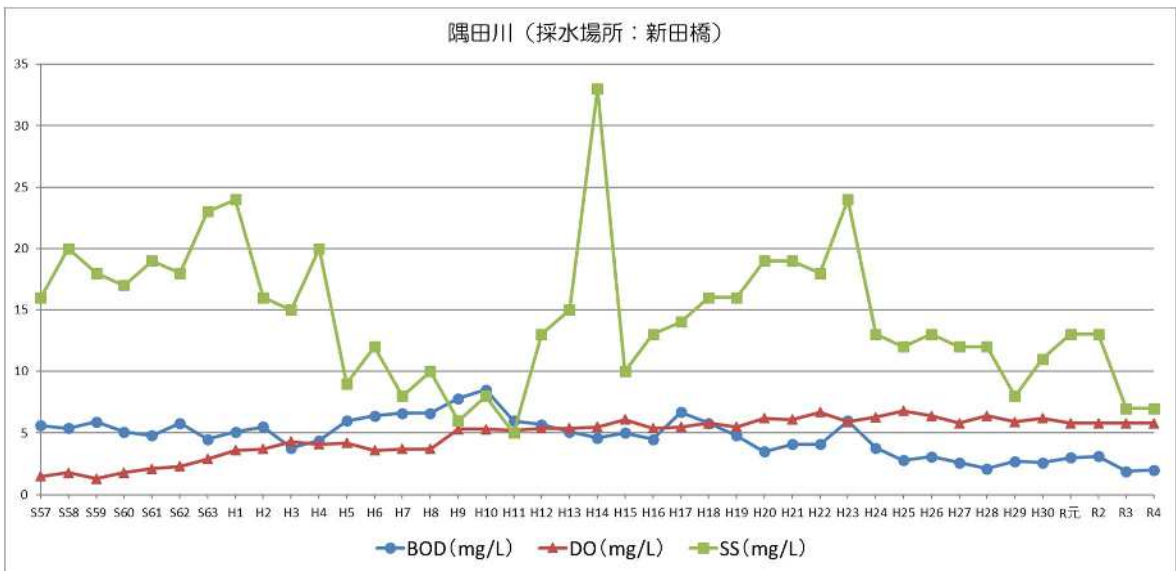
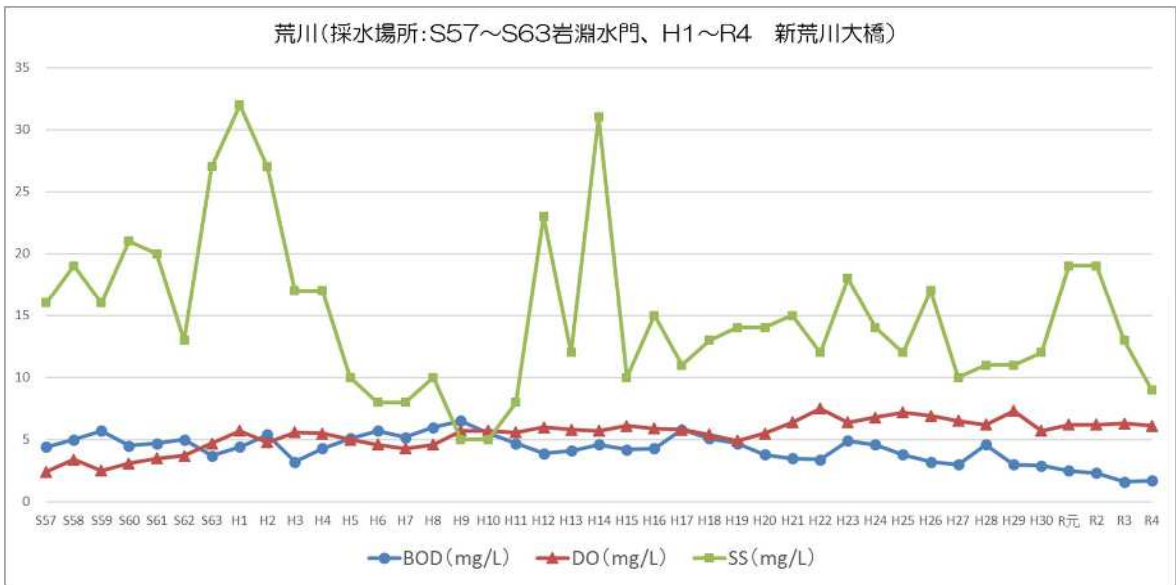
<59> アシシロハゼ

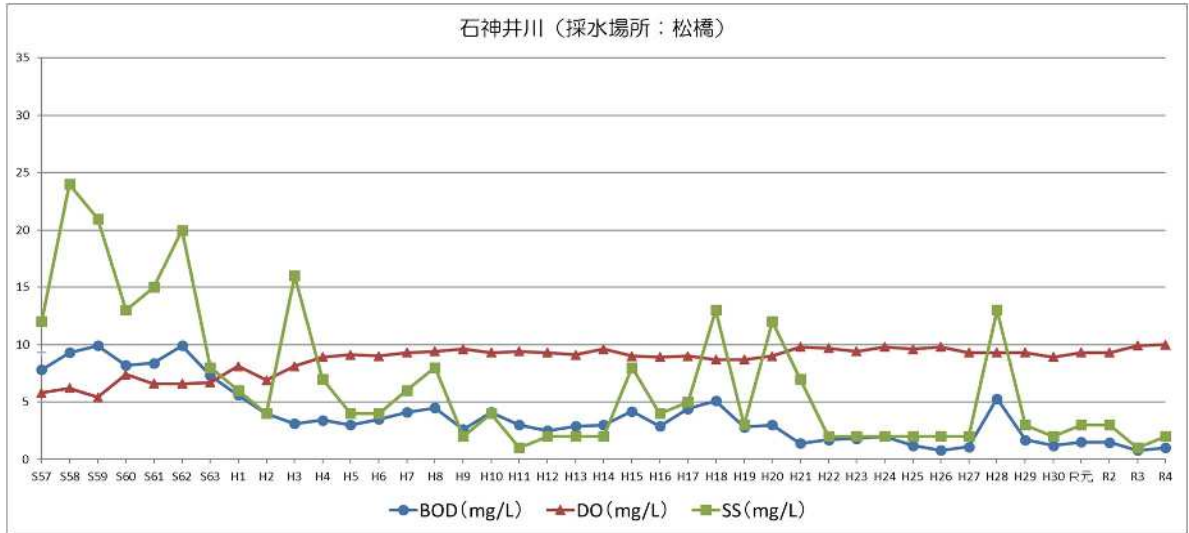


君塚芳輝氏撮影：

1,11,14,16,23,28,33,38,48,49,50,52,55

【河川水質の経年変化（年平均値）】





【北区を流れる河川の環境基準】

類型	該当河川	基準値			
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的溶存酸素 要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)
B	石神井川	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/L 以下	25 mg/L 以下	5 mg/L 以上
C	荒川 隅田川 新河岸川	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以下	50 mg/L 以下	5 mg/L 以上

※類型は東京都告示第 463 号（平成 29 年 3 月 17 日）により指定されている。

- 水素イオン濃度 (pH) :
液体が酸性であるかアルカリ性であるかを示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。
- 生物化学的酸素要求量 (BOD) :
水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
- 浮遊物質 (SS) :
水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつ。河川にSSが多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害し、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、川底の生物にも悪影響を及ぼします。
- 溶存酸素量 (DO) :
水中に溶解している酸素のこと。酸素のない川や少ない川はいわば死んだ川で、魚類は生存できません。



ゼロカーボンシティ
北区 ▶ 2050

北区河川生物生息調査報告書

令和6年3月発行

刊行物登録番号

5-3-054

発行／北区生活環境部環境課

〒114-0002

東京都北区王子1-12-4

TIC 王子ビル 2階

TEL 03 (3908) 8618 (直通)